



下村チーフアドバイザー再赴任などなど

2014年2月末日に一旦帰任された下村専門家が6月12日に再赴任されました。続く6月16日、19日にそれぞれ短期専門家、計4名が赴任され、2014年度の新しいステージが始まりました。

本号では、短期専門家2014年度第1陣の活動や7月9日、10日に開催された水道事業運営ワークショップや月例会議の様子、最近取り組みがはじまったDHUP(公共事業運輸省・住宅都市開発局)との活動をご紹介します。



2014年度第1陣短期専門家始動

Project MAWASU 2014年度第1陣短期専門家4名が2014年6月16日、19日に着任しました。今回は6名体制で、残りの2名はそれぞれ7月末、8月上旬に赴任予定です。指導分野は、これまでと同様、配給水管施設計画、水道事業経営管理(事務・顧客)、水道事業経営管理(財政)、行政機能/水道事業指標に加えて、新たに無収水管理が設定されました。派遣元組織もこれまでと同様、さいたま市(続きは2ページ)



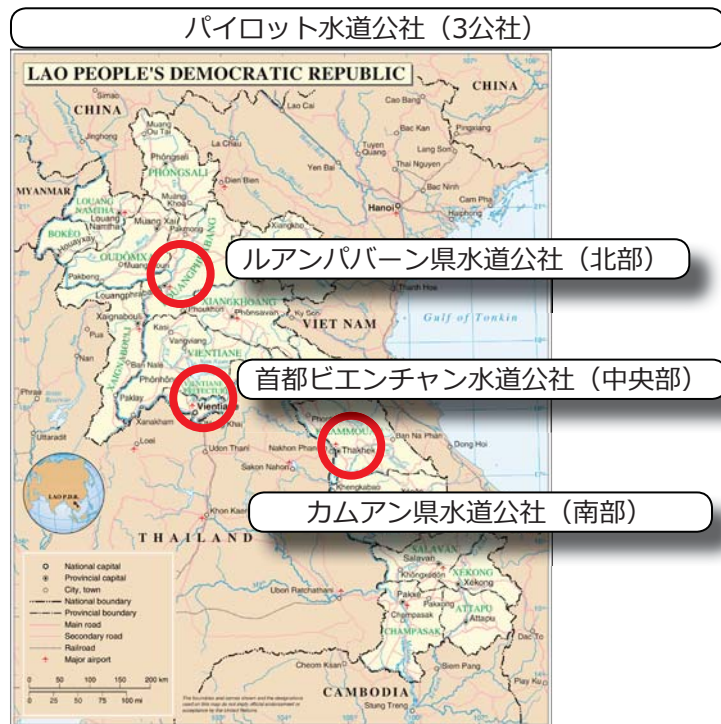
水道事業運営ワークショップ開催

2014年7月9日にプロジェクト第8回目となるワークショップ「水道事業運営ワークショップ」が開催されました。下村リーダーによる「水道事業運営全般」のプレゼンテーションと宮川(財政担当)短期専門家による「日本における水道事業会計制度」のプレゼンテーションというラオスの水道事業運営にとって欠かすことのできない内容の講義です。講義に続いて下村リーダーのファシリテーションによるディ(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。



2014年度第1陣短期専門家始動（続き）

水道局、埼玉県企業局、川崎市上下水道局、横浜市水道局の先鋭職員が指導にあたっています。新設の無収水管理は東京水道サービス株式会社(TSS)の経験豊かな専門家が着任の予定です。

短期専門家団は派遣期間が1ヶ月と短い水道事業経営管理(財政)専門家を除いて、基本的に3パイロット水道公社2週間滞在の巡回指導です。進捗把握→課題整理→技術的アドバイス→次回までの目標設定の流れで水道公社の各分野担当職員と個別指導型OJTを行います。2週間滞在期間中に1職員あたり2～3回という濃密なOJTにより各職員の能力が向上するとともに活動の進捗も見られます。



各水道公社を巡回指導する短期専門家団



財政担当職員に指導する宮川専門家

派遣元組織との調整により1ヶ月派遣の水道事業経営管理(財政)＝宮川貴志専門家は3パイロット水道公社1週間滞在の超濃密巡回指導です。1週間毎日終日のOJTが終わった後は、専門家、財政担当職員も達成感が滲み出ており、月例会

議での分科会ではこれまでにない生き活きた表情で報告を行っていました。

ラオスの現状では財政分野の支援がとても重要です。本プロジェクトの中心活動である長期、中期、短期計画策定(すなわちラオス水道分野の課題)において実行を担保するためにも財政の裏付けは必要不可欠です。しかしながら、統一された会計基準はなく、各水道公社が独自の能力と個別の問い合わせ、上位機関からの指導で財政が整理されているのが現状です。国営企業の(総括)原価主義による独立採算化を目指しているラオス政府にとって、財政分野短期専門家の活動は大きな一歩だと言えます。

Project MAWASUポロシャツ作成

カウンターパートから要望されていたプロジェクトロゴ入りポロシャツを作成し、月例会議で全てのプロジェクトメンバーが集まった際に発表、配布しました。喜んだプロジェクトメンバーはすぐに試着して会議に出席。これにより一段とProject MAWASU団結意識が高められました。



MAWASUポロシャツを着て会議に参加するプロジェクトメンバー

水道事業管理ワークショップ開催（続き）

スカッションでは、与えられたトピックについて意見が述べられました。従来のワークショップではグループディスカッションの後に発表という形式でしたが、今回はオープンディスカッションです。



水道事業管理ワークショップの様子

下村リーダーと宮川専門家のプレゼンテーションに呼応したトピックが用意されましたが、多くの意見は目の前にある課題への取り組みです。

「ラオスにおける水道の目的は?」というトピックに対して、多くの意見が、普及率の向上や需要への十分な水量供給、水質向上、人材育成など喫緊の課題に関することです。想定した回答は、公衆衛生の向上と生活環境の改善という本質的なものでしたが、水道公社や行政においても現時点では目の前にある課題に意識が向けられているという構図が見られました。

それでも今回の取り組みは大きなステップです。個別専門分野の技術や能力の向上はもちろん重要ですが、基本に立ち返る意味での「水道の目的は?」という問いはプロジェクトメンバー各自の業務の幅を広げ、深く掘り下げていくのとも思われます。このような意識改革は一朝一夕にできるものではありませんが、プロジェクト開始2年を間近に迎え、このような本質的な問いをできるまで意識が高まってきているとの下村リーダーの判断です。

データ管理マニュアルやサマリー年報、長期計画など目に見えた成果が出てきており、今後中期財政計画や、長期計画個別計画の実施をなど支援すると同時に意識改革の面でも専門家団はフォローアップしていきます。

DHUP水道課との勉強会スタート

2014年7月17日から公共事業運輸省(MPWT)住宅都市開発局(DHUP)水道課との勉強会が始まりました。Khanthone課長と若手職員3名との週1回の勉強会です。項目は1. 水道ビジョン(水道・衛生分野戦略の水道公社への解説)、2. 水道協会設立、3. PPP(官民連携)です。プロジェクト開始2年を間近に控えてのようやの勉強会立ち上げです。



水道課との勉強会がスタート

今後の予定

- 7月27日(日)樋口英雄短期専門家(無収水管理)来寮
- 8月3日(日)山本隆敏短期専門家(行政機能/業務指標)来寮
- 8月7日(木)水道事業ガイドラインミニワークショップ、分科会
- 8月8日(金)IPWC+PMT会議(月例会議)
- 8月14日(木)南保肇短期専門家(水道事業経営管理)離寮
- 8月23日(土)Project MAWASU 2周年
- 8月27日(水)小岩謙一郎さん(インターン)来寮
- 8月29日(金)園田圭佑短期専門家(配給水管施設計画)離寮

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>